

大手前のまちづくりに向けて
中間とりまとめ

平成21年10月

大手前まちづくり検討会 幹事会

目 次

| | |
|----------------------|---|
| 1 . はじめに | 1 |
| 2 . 大阪城周辺地域のポテンシャル | 2 |
| 3 . 大手前のまちづくりに向けた方向性 | 3 |
| (1) 基本的考え方 | 3 |
| (2) 経済団体からの提案 | 4 |
| (3) コンセプトイメージ | 5 |
| (4) 導入すべき機能と施設例 | 6 |
| 4 . 今後の取り組みに向けて | 8 |

【参考資料】

進め方・スケジュール

大手前まちづくり検討会の委員・幹事等名簿

1.はじめに

大阪城周辺地域は、大阪のシンボルである大阪城に向かって、開放的なスカイラインを有し、北側は、舟運の八軒家浜をはじめ造幣局、民間美術館等が立地し、東側は、O B Pを中心とするビジネス機能の集積、都市のクールスポットともいべき緑豊かな大阪城公園、さらに、南側には、難波宮をはじめ歴史博物館などを配し、水と緑、歴史、文化に恵まれた都心の中でも良好な環境を有する地域である。

しかしながら、府庁が立地する大手前地区に着目すると、長らく低未利用の広大な土地が眠ったままで、貴重な府民共有の財産が手つかずの状態となっている。一方、森之宮に立地する府立成人病センターは、昭和40年に建設され、その後増改築されてきたが、施設の老朽化や狭あい化などへの対応のみならず、がん医療の急速な進歩に対応した、がん対策推進のため、建替えが喫緊の課題となっている。

また、人口減少という流れの中で、大阪が活性化していくためには、残された都心の一等地ともいべき大阪城周辺の再生を通して、アジアなどからの集客性を高めていくための仕掛けづくりも必要となっている。

大阪府では、平成21年8月5日「大手前まちづくり検討会」を設置し、府庁舎のW T C 移転を契機とした大手前のまちづくりに関し、その具体化に向けて、まちづくりのコンセプト、導入すべき機能等について検討を進めた。

本中間とりまとめは、これまでの検討会での意見を踏まえ、幹事会として大手前まちづくりの基本的な考え方などをとりまとめたものである。





〔図1〕大手前周辺の立地状況

航空写真出典：グーグルアース

2. 大阪城周辺地域のポテンシャル

大阪城周辺地域は、大阪城天守閣（約130万人）をはじめ、難波宮、NHK、大阪歴史博物館（約31万人）、民間美術館等の歴史文化施設が立地するとともに、大阪城ホール、造幣局（約80万人）の桜の通り抜け、昨年開港した八軒家浜など、歴史と文化の結節点として多くの人々が訪れる高い集客力のある地域である。さらに、水都大阪、近代文化を象徴する中之島地区との連続性を持つ地域である。

（ ）は年間来場者数

また、公立や私立の高校や専門学校などの教育施設が立地し、閑静な雰囲気とあわせ文教地域としての顔を持っているとともに、森之宮の府立成人病センターをはじめ、国立大阪医療センター、大手前病院など、上町台地周辺では様々な高度医療施設が立地している。

大阪城周辺の一帯は、都心随一のクールスポットとも言える、水と緑の調和のとれた地域として、いつでも自然を感じることもできるみどりの回廊を形成しており、訪れる人々に、安心とやすらぎをもたらすことができる地域である。

また、病院などの各種施設と周辺の恵まれた環境が、有機的に連携することにより、新しい魅力を創り出すことのできる地域である。

3. 大手前のまちづくりに向けた方向性

(1) 基本的考え方

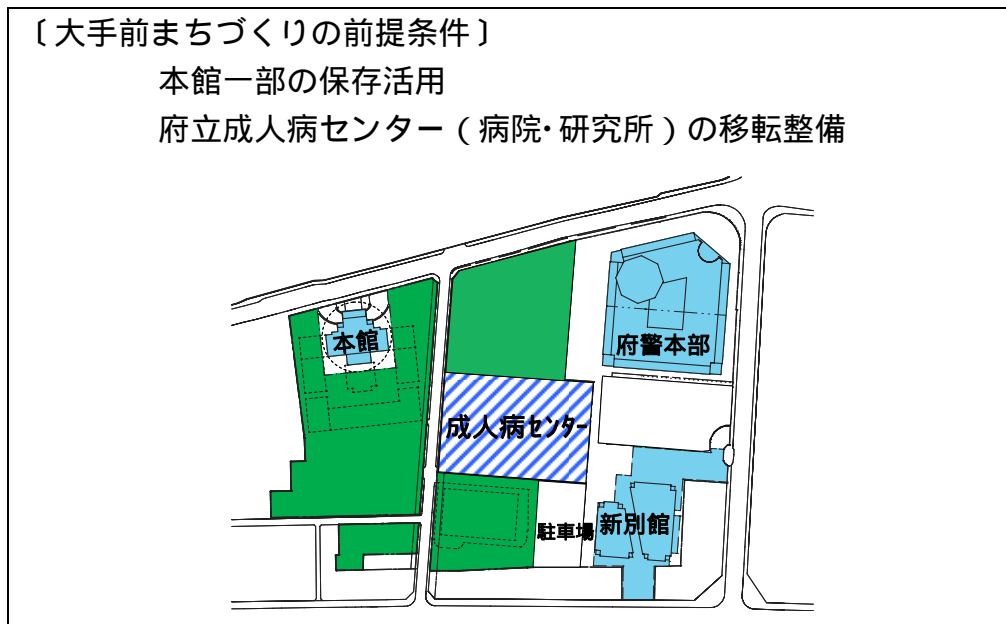
大手前のまちづくりは、この地区の低未利用地の活用策を起爆剤として、大阪城周辺地域の活性化につながるリーディングプロジェクトと位置づけられるものであり、それに相応しい構想とすることが必要である。

かつて、大手前地区の隣接地では、難波宮史跡公園の整備のため、市立体育館を現NHKの立地場所から大阪港近くの朝潮橋に、NHKを隣接地から現在地に、それぞれ移転させ、この地域を整備した経験を持つ。

いま、築80年を超える府庁本館の歴史的建築物としての価値を活かしたまちづくりを求める声がある府庁舎は、その老朽化、耐震性、狭あい等の課題からWTCビルへの移転に向けた検討が進められている。

また、府立成人病センターについても、がん医療の拠点病院として早期の機能強化が求められており、現地建替えに比べ移転建替えは工期の短縮が可能なことから、大手前地区への移転建替えに向けた検討が進められている。

本検討会で大手前のまちづくりの意見交換にあたり、大阪府としての大手前のまちづくりの前提条件を設定した。



これらはいずれも、既存の資産の更新を期に、大胆にリロケーション（再配置）することで、質の高い都市再生、都市拠点形成へとつなげていくということを基本姿勢として取り組んでいるものである。

(2) 経済団体からの提案

検討会においては、大手前まちづくりの前提条件及び周辺地域のポテンシャルを踏まえ、経済団体から、「医療拠点を核としたまちづくり」「医療と歴史・文化・観光の複合ゾーン」という二つの提案が出された。

それぞれの提案は、方向性が異なるものではなく、まちづくりのエリア、ポテンシャル、コンセプト、導入機能などについて、多くの共通点を有する。

提案 . 医療拠点を核としたまちづくり

「医療・健康」をテーマに絞ったまちづくりを進める。がんをはじめとする成人病等への世界最先端医療の提供と研究のための拠点（病院、研究開発施設・放射線治療施設など）の集積・ネットワーク化を図るとともに、予防医学、健康づくりの観点から、ヘルスケアサービス、居住・宿泊（医療機関利用者も利用できるホテル、介護サービス付きマンションなど）など関連産業とも連携したゾーンとする。あわせて歴史や文化、教育など地域の豊富な蓄積を活用していく。（医療関係の資格取得支援施設など）

提案 . 医療と歴史・文化・観光の複合ゾーン

「医療」「歴史・文化」「観光」の複合的なゾーンとしてまちづくりを進める。医療では、提案と同様に世界最先端の医療提供拠点として府立成人病センターを核とした医療・健康づくり関連施設の集積・ネットワーク化を図る。歴史・文化・観光では、大阪城、難波宮、歴史博物館など大阪の歴史を体感できるスポットや周辺文化施設をつないで、歴史・文化周遊ゾーンとして整備するとともに、医療観光（メディカルツーリズムなど）も含め内外から観光客を惹きつけ、滞在させるしかけづくりを進める。（長期滞在できるリゾート的な宿泊施設など）

「メディカルツーリズム」とは

「観光」と「医療サービス」をセットにしたパッケージツアー。ホテルなみの施設とサービスに加え、高度な医療技術も提供するもの。

以上の提案については、次の共通点が挙げられる。

大阪城周辺地域のポテンシャルを活かし、さらに活性化につながるリーディングプロジェクトとして位置づけて取り組むこと。

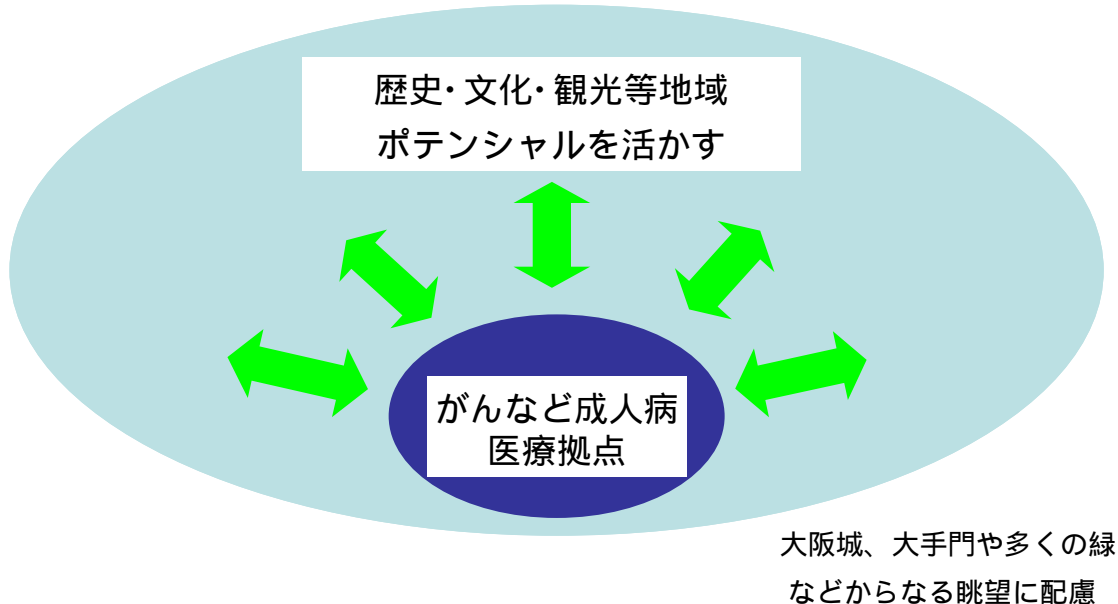
府立成人病センターが有するがん医療機能など、先端医療機能の集積をめざすこと。

歴史・文化・観光等の資源を活かし、予防医学や健康増進などを含めた医療産業の集積をめざすこと。

(3) コンセプトイメージ

地域ポテンシャルを活かした高度な先進医療のまちづくり

～大阪城周辺地域活性化のリーディングプロジェクトとして～



〔図2〕コンセプト

検討会の提案・意見を踏まえ、まちのイメージとしては、歴史・文化・緑の多い都心の一等地という特性を活かし、「医療」「健康・癒し」を核にした都心のオアシスとしてのまちづくりを進め、府立成人病センターと医療関連施設を中核とした、次のようなまちづくりが考えられる。

- ・がんをはじめ成人病に関する「先端医療拠点」
- ・緑豊かな環境の中で暮らし、安心して高度医療や介護サービスなどを受けられるホスピタリティの高い「医療を中心に健康・安心の暮らしを支援するまち」
- ・関西国際空港へのアクセスを活かし、がん治療等の先端医療施設の充実により先端医療を受けながら大阪を楽しめる「歴史、文化、恵まれた自然環境などを付加価値に先端医療を中心とした医療と観光のまち」
- ・歴史・文化・観光等の地域ポテンシャルを活かした、内外からの観光客の誘致

(4) 導入すべき機能と施設例

以上のコンセプトイメージを前提に、大手前地区に導入すべき機能及び施設を、次の通り想定した。

機能1 がんをはじめとした成人病に関する先端医療拠点 (成人病医療ハブ)機能

- ・ 府立成人病センターと医療関連施設を中核とした、先端医療機能の集積(国立大阪医療センターや大手前病院など)による医療サービスの提供及び臨床研究を中心とする研究の推進
- ・ 大阪城の緑豊かな環境の中で、高度医療が受けられるホスピタリティの高い医療環境

(施設例)

高度な先端医療技術を提供する病院及び研究開発等施設

- ・ 先端の医療が受けられる拠点として、放射線治療等施設、治療・医療機器開発施設など

機能2 地域ポテンシャルを活かしたサービス産業(観光とヘルスケアをパッケージにしたメディカルツーリズムなど)、次世代医療システム産業のコアなどの医療・健康サポート関連産業育成機能

- ・ 健康増進や病気の予防(人間ドックなど)を促進するための民間サービス産業など、先端医療機能を支える周辺産業(専門教育機関を含む)を創出・育成

(施設例)

スポーツなど健康増進施設、医療・介護サービス付き居住施設、宿泊滞在施設(国内外から訪れる患者にも対応)、医療・健康サポート関連産業(医療システム支援など)のオフィス、医療や介護、健康(栄養)などの専門職を育成する教育施設など

機能3 歴史・文化・観光等の地域ポテンシャルを活かした機能

- ・ 予防医学や健康増進と連携したサービス
- ・ 内外からの観光客の誘致
- ・ 豊富な歴史、文化の蓄積を生かした周遊空間づくり
- ・ 水や緑の豊かさと医療施設の集積を活かした医療等サービス

(施設例)

歴史学習施設、文化・芸術施設など

- ・大阪城や大阪歴史博物館、難波宮などの歴史スポットをつなぐネットワーク、歴史的建築物である大阪府庁の建物などを活用した文化施設（コンサートホールやギャラリーなど）

(留意点)

- ・ 大手前地区に先端医療拠点機能の導入を検討するにあたっては、医薬品・医療機器を中心とした北大阪バイオクラスターや、再生医療等を中心とした神戸医療産業都市をはじめとしたバイオクラスター拠点の形成に向けた取り組みが進んでいることから、関西という広域的な視点で連携を考えることが必要である。
- ・ 人口減少期を迎え、都市活力の持続性の観点からアジアをはじめとする内外からの集客性を高めることも大きな課題になっている。
大手前地区への機能導入や施設誘致にあたっては、この地域がアジアの中で存在感を示すようにするため、既成の制度等にとらわれない大胆な発想で拠点形成、まちづくりを推進することが必要である。
- ・ 施設配置にあたっては、大阪城に面する上町筋沿いの豊かな緑と連続した、良好な都市景観の形成と、谷町筋側から見た大阪城の景観、特に大手通を軸とした景観形成、すなわち大手門、大阪城、そして多くの緑などからなる眺望に配慮したまちづくりを進めることで、大手前エリアの付加価値を高めることになる。

また、先端医療拠点としてのまちづくりにおいて、研究などに携わるなどそこに働く人々にとっても、都市景観に配慮することは、新たな発想や研究をする環境としても、意義があるものと考えられる。

4．今後の取り組みに向けて

今回、本中間とりまとめでは、「地域ポテンシャルを活かした高度先進医療のまちづくり」というコンセプトを提案するとともに、導入すべき機能や施設例を示した。

今後は、まちづくりの具体化に向け、想定している機能と施設例の導入・立地可能性について、フィージビリティスタディ（事業可能性調査）に資する情報収集（企業ヒアリングなど）を行っていくことが求められる。

また、この中間とりまとめは、府庁舎周辺の大手前地区の低未利用地の活用によるまちづくりの方向性を示しているが、この地区の活用策にとどまらず、コンセプトのサブタイトルにあるように、大阪城周辺地域のポテンシャルを活かし、この大手前のまちづくりを大阪の活性化につながるリーディングプロジェクトとして位置づけ、その広がりについては、まちづくりの進展にあわせて、関係者からなる新たな検討の場を設けることが望まれる。

まちづくりは20年、30年先の都市像をイメージして進めるものである。特にこの地域一帯は、アジアをはじめとする広域的な集客拠点としてのポテンシャルを高める観点から、アジアに存在感を示していくことが求められる。

そのためにも、景観に配慮しながら、次代に継承できる風格と格調高いまちづくりを念頭において、リーディングプロジェクトとして取り組むべきである。今後、より具体的なプランを検討する場合は、その旨を十分に理解して取り組むことを求める。

〔進め方・スケジュール〕

H21年度 土地利用構想の議論

大手前エリアについて、大阪市等と連携するとともに、民間の視点からのアイデアや意見を求めながら、土地利用イメージを具体化していく

「大手前まちづくり検討会」

- 平成21年8月5日設置
- 構成：大阪府・大阪市・経済3団体等
- 開催状況
 - 平成21年8月5日 第1回検討会
 - 平成21年9月15日 第2回検討会
 - 平成21年10月8日 第1回幹事会
 - 平成21年10月14日 第2回幹事会

フィージビリティスタディ(事業可能性調査)に資する情報収集
(企業ヒアリングなど)

- ・ 事業参画可能性
- ・ 導入する機能及び施設
- ・ 本館の東館の活用方法

H22年度 土地利用基本計画の策定

- ・ エリア全体のまちづくりコンセプト
- ・ 導入機能
- ・ コンペ要綱作成



H23年度 事業コンペ

大手前まちづくり検討会の委員・幹事等名簿

委 員

| |
|-------------------------|
| 大竹 伸一（社団法人関西経済同友会常任幹事） |
| 奥田 真弥（社団法人関西経済連合会専務理事） |
| 北村 英和（大阪市計画調整局長） |
| 木村 慎作（大阪府副知事） |
| 佐藤 茂雄（大阪商工会議所副会頭） |
| 山西 弘一（独立行政法人医薬基盤研究所理事長） |

幹 事

| |
|--------------------------------------|
| 川田 均（大阪市政策企画室企画部施策重点化担当部長） |
| 神田 彰（社団法人関西経済連合会地域連携部長北梅田プロジェクト推進室長） |
| 児玉 達樹（大阪商工会議所総務広報部長） |
| 佐藤 道彦（大阪市計画調整局計画部長） |
| 中野 時浩（大阪府総務部副理事） |
| 春名 克俊（大阪府政策企画部企画室課長（事業調整担当）） |
| 松尾 康弘（社団法人関西経済同友会事務局次長兼企画調査部長） |

オブザーバー

| |
|------------------------|
| 伊東 昌明（近畿地方整備局営繕部営繕調査官） |
| 増永 賢一（近畿財務局管財部次長） |